

防災ワークショップ@椎名町学童クラブ

開催日 2014 年 5 月 21 日 15 時～16 時

児童数：12 名（男子 5 名、女子 7 名）

参加者：山崎、武居（まちづくり委員会）、竹田、星野、今村（青年委員会防災本 WG）

準備：

4 月 23 日 学童クラブの下見と学区周辺の散策、その後プログラムの打合せ

5 月 9 日 プログラムの再打合せと作業分担

当日プログラム：

1. 挨拶+自己紹介
2. ワークショップ①「地震が起こった瞬間にすること」
緊急地震速報を合図に行動
3. ワークショップ②「東日本大震災のこと」
震災の時どこにいた？ 何がおこった？ 何を感じた？
4. ワークショップ③「じぶんの家の「キケン」発見」
部屋の模型を揺らして固定されている家具とされていない家具の違いを体験する
家具を切り取り、貼付け、自分の家の LDK の平面図をつくる
5. ワークショップ④「隣の建物とゆれかたが違う！？」
模型を揺らして建物と地震の規模との関係を体験する
新宿のビルが揺れる映像を見る
6. 防災本配布+復習（プロジェクターを使い、防災本の該当ページを見せながら）

成果：

- ・ 放課後で遊びたいモードにある子供たちの関心を引くために、模型によるシミュレーションを行ったり、図画工作的な要素を入れるといった工夫をした。それがある程度有効に働き、1 時間のワークショップを全員集中して終えることができた。
- ・ 学童クラブのスタッフから半年に 1 回ぐらいのペースで今回のようなワークショップを継続的に行うといいのではないかというオファーを受け、今後に繋がるものとなった。

課題：

- ・ ワークショップ③のように平面図的に家の中を表現することは小学 3 年生には多少難しかった。今回の場合は模型があったので、それを上から見てもらうなどして理解させた。
- ・ 運営スタッフが 5 名いたが、2 名程度でも行えるようになるためには、ふざけてしまう子供へしっかり注意するなど、子供との接し方にも慣れておく必要がある。
- ・ ワークショップのための教材は、子供たちの心を掴むために非常に重要である。完成度の高い教材開発をしていく必要がある。



挨拶



ワークショップ①



ワークショップ①



ワークショップ③



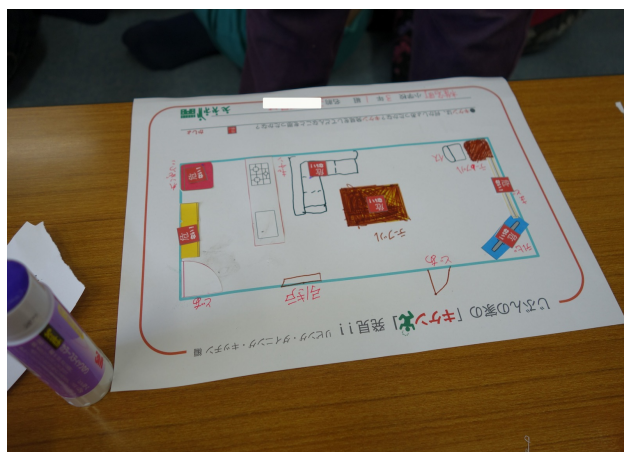
ワークショップ③



ワークショップ③



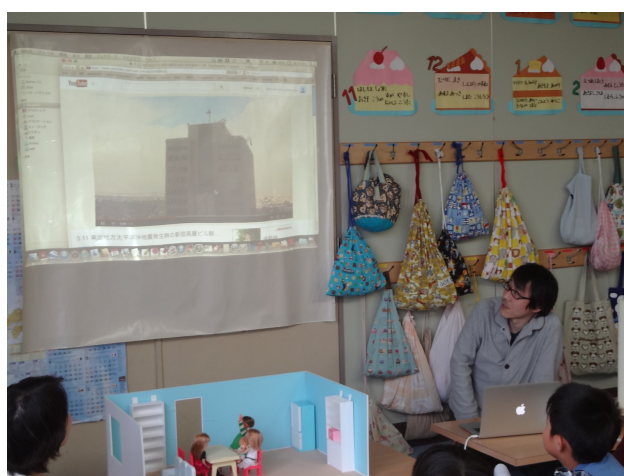
ワークショップ③



ワークショップ③



ワークショップ④



ワークショップ④



防災本配布+復習